



弟子の掟⑩

2011/9/11

シリーズ～弟子道～

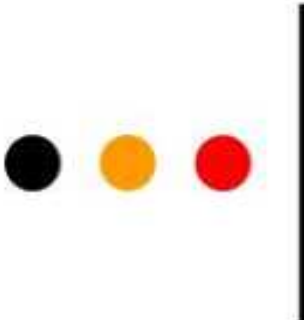
● ● ● | マタイ福音書6章25～34節

「だから、言っておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと**思い悩む**な。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。あなたがたのうちだれが、**思い悩んだ**からといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。なぜ、衣服のことで**思い悩む**のか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

● ● ● | マタイ福音書6章25～34節

今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、**思い悩むな**。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。

何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで**思い悩むな**。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」

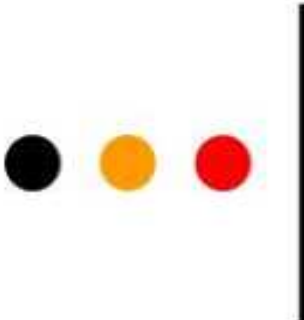


前回の掟

- 富をこの世に蓄えない
 - たくさん作って、たくさん使おう！
- 富に対する正しい考え方を持つ
 - お金のことばかり気になっていないか？
- 富にではなく、神に仕える
 - どちらを大切にしているか？
 - 金に支配されていないか？

● ● ● | 神に仕えるなら思い悩むな！

- 「自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思い悩むな」
- 衣食住, この世の命に関わること全般
- 「思い悩む」とはどんな状態か
 - そのことを楽しめない
 - そのことで人を批判したくなる(マルタ)
 - 気がつくと心を支配している



思い悩むな！なぜなら...

- 命は食べ物よりも、体は衣服より大切だから
 - 本当に大切にすべきもののために悩め
- 天の父が私たちを養って下さるから
 - 「空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。・・あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。」
- 思い悩んでもどうしようもないのだから
 - 思い悩んでも寿命は延ばせない



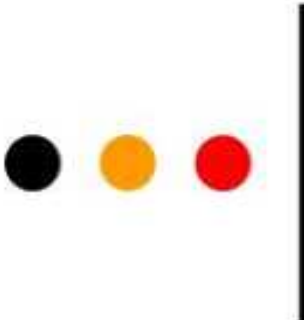
思い悩むな！なぜなら...

- 天の父はあなたを美しく輝かせるから
 - 栄華を極めたソロモンでさえ、野の花ほど着飾っていなかった
- 天の父はあなたの必要をご存じだから
 - 『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』は意味のない問い
- もっと大切なことがあるのだから！



神の国とその義を求めなさい

- 「神の国とその義」とは
 - 神の栄光が現され、神の意志が行われ、神の愛と恵みが溢れる
- 思い悩むのは、「私の国と私の義」を求めているから！
 - 自分の思いと願いがその通りになる
- 「何よりもまず」神の国と神の義を求めるなら、他のものは「加えて与えられる」



明日のことまで思い悩むな！

- 明日のことまで思い悩むな
 - あなたに明日があるかどうか分からない
- 明日のことは明日自らが思い悩む
 - 明日が与えられたら、その時思い悩めばよい
- その日の苦労は、その日だけで十分である
 - 余計なことまで背負い込む必要はない



アッシジの聖フランチェスコ

- イタリアの裕福な織物商人の息子として生まれたが、戦争で病気になり、回復後に本当の豊かさ、幸せを求めて世俗を離れ、聖貧の生活を送る。
- 彼の教えに賛同した多くの人たちが集うが、最初は異端扱いに。しかしその教えが認められ、「小さき兄弟の修道会」となり、後に「フランシスコ会」となる